

大分合同新聞
令和6年新年特別号
新春医療機関インタビューに
深野理事長が掲載されました



中津胃腸病院 理事長
深野 昌宏氏

地域連携と人材確保に力入れる

中津胃腸病院は、消化器外科・内科を

中心に診療から手術、リハビリテーション、さらに緩和ケア、在宅医療（訪問診療・訪問看護）までを担い、地域医療に取り組んでいる。

昨年7月に藍澤哲也院長が就任。自身は理事長専任（名誉院長）となり、引き続き医療現場と医療法人社団の運営に携わる。「世代交代の時と思い、40代の藍澤院長に任せることにした。今後は実務

に専念したい」と思いを語る。

2020年から続いた新型コロナウイルス禍は5類移行で院内の繁忙も一段落し、昨年後半は、「本来の消化器病に特化した病院の姿を取り戻した」と振り返る。救急を積極的に受け入れ、一昨年から導入している自前の救急車も病院間の搬送で活躍した。22年12月～23年11月の手術件数は273件で、その内、腹腔鏡手術は98件、痔核・痔ろうなど肛門手術

は107件に上る。「大腸、肛門疾患診療は藍澤院長が担当。女性にも親しみが持てるようホームページも工夫している。中津胃腸病院の顔々にしたい」と意気込む。昨春、患者の入退院支援を行う部署を改称し、医療ソーシャルワーカーや看護師を配置した。入退院や診療などの相談に対応するなど、地域連携を進めている。「人あっての病院。機材が優れても人に代わることはできない。医療の充実のために専門知識を身に付けた人材は欠かせない」と言い、専従職員が人材確保のために県内はもとより県外各地に出向

いている。一方で「看護師の残業を減らし、職員には満足のいく給与を支払いたい」と院内の就業環境にも心を配る。25年は開院45周年の節目を迎える。建物の改築や整備に加え、医療機器の新規導入、専任の人材の確保など課題は多いが「消化器病に特化した病院としてさらなる医療業務を強化するため、資材の投入は惜しまない」と話す。「少子高齢化の時代で、地域では開業医の廃業が相次いでいる。地域の医療の先行きは不安だが、病院として体力を備え、使命感で立ち向かっていく」と決意を新たにする。



「地域医療を私たちが支える」と決意

病院DATA

●診療科目

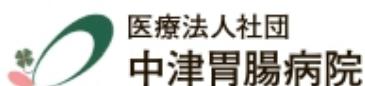
外科・消化器外科・内科・消化器内科・肛門外科
リハビリテーション科・疼痛緩和内科
麻酔科（深野昌宏・滝口哲）

●診療時間

平日／9:00～12:00、14:00～17:30
土曜／9:00～12:00

●休診日

土曜午後、日曜、祝日
※急患の方はこの限りではありません



中津市大字永添510番地
TEL0979-24-1632
<https://n-icho.or.jp>

